

### (3) 「反射性交感神経性ジストロフィー/

### 複合性局所疼痛症候群タイプ I への中医治療の試み」

加島雅之

(熊本赤十字病院内科)

【はじめに】反射性交感神経性ジストロフィー (Reflex Sympathetic Dystrophy: RSD) / 複合性局所疼痛症候群タイプ I (Complex Regional Pain Syndrome type I: CRPS type I) は外傷機転後の持続する難治性の慢性疼痛として知られ、早期の治癒がはかれない場合には強烈な疼痛に伴う苦痛および患肢の廃用を来す。現在、西洋医学による治療は神経ブロックや抗うつ薬、抗けいれん薬が使用されるが、標準的な治療法は確立しておらず極めて難治性の病態として知られる。今回、左下肢の RSD/CRPS type I により歩行困難であったものが、中医学的治療により劇的に症状が改善した症例を経験したため報告する。

【症例】43 歳女性

【主訴】左下肢の疼痛に伴う歩行困難

【現病歴】201X 年 1 月に不眠のために眠剤を使用し、フローリングの床の上で約 14 時間左下肢を圧迫した状態で入眠臥床していた。覚醒時、左下肢の腫脹・脱力・知覚の低下を自覚。約半日の経過で知覚と脱力は改善傾向だったが電撃痛が出現。6 日間、近医整形外科等で鎮痛剤などの処方を受けたが症状が改善しないため、当院受診。受信時、CK: 24670mg/dl、および造影 CT・MRI で左中臀筋から大腿筋・下腿筋群にかけての腫脹および融解像を認め、入院精査加療。横紋筋融解症は軽快したが、左下肢の腫脹および疼痛持続。難治性疼痛のために神経ブロック、NSAIDs 投与、抗けいれん薬で症状悪化傾向。桂枝茯苓丸エキスで疼痛改善傾向だったが疼痛のコントロールが不十分であり、煎剤導入のため紹介受診。

【現症】左下肢は疼痛のために足をつくことが出来ず、松葉杖歩行。足底を中心にジリジリした疼痛と灼熱感・冷感が交代して持続する。軽く皮膚を触れただけで出現する電撃痛あり。左下肢は腫脹し鬱血様。温めたり冷やしたりで症状は軽快・増悪することがあるが一定しない。

【経過】当初、活血化瘀・通経活絡・利湿の処方で加療を行い、鬱血様の下肢の色調と腫脹は約 1 ヶ月の経過で著明に改善。それにあわせてジリジリとした疼痛も改善傾向であった。しかし、更に 4 週間の経過をみても疼痛の改善が認められなかった。足底の充血傾向、温めると症状が増悪するという訴えから、陰虛生風・瘀血と考え、滋陰熄風の処方に変更したところ、約 10 日で著明に症状改善。更に 7 日で松葉杖を使用せずに歩行可能となった。

【考察】長期間経過した RSD/ CRPS type I に対して、本邦では温通・活血を主とした処

方による治験例が散見される。比較的早い段階での RSD/ CRPS type I に対して、活血化癥・利湿を行い、更に陰虚生風を機序とした疼痛を見逃さず治療することは治療戦略の一つとして有用と考えられた。

## プロフィール

加島 雅之 (かしま まさゆき)

1976 年 7 月 27 日生まれ

### ◇現職

熊本赤十字病院 内科 医員

### ◇職歴

平成 14 年 国立宮崎医科大学医学部 (現: 国立宮崎大学医学部医学科) 卒業

平成 14 年 熊本大学医学部総合診療部入局

平成 14 年 熊本大学医学部第 2 内科 (血液・膠原病内科) 勤務  
熊本赤十字病院勤務

平成 15 年 国立熊本病院 (現: 国立熊本医療センター) 勤務

平成 16 年 沖縄県立中部病院 総合内科国内留学

平成 16 年 熊本赤十字病院 救急部勤務

平成 17 年～ 熊本赤十字病院 内科勤務 現在に到る

平成 18 年 亀田総合病院 感染症科国内留学

### ◇学会活動

日本中医学会 評議員

国際東洋医学会日本支部 評議員

日本東洋医学会熊本県部会 幹事

東亜医学協会 会員

日本内科学会 認定医

日本感染症学会 会員